

## もう!ご出席 第39回総会

年に一度の総会が7月1日(土)に開かれます。卒業後30,35,40,45年という節目の方々、楽しい企画を進めています。ぜひご出席下さい。

- 【日時】** 7月1日(土曜日)  
14時 受け付け開始  
15時 総会開会  
16時 懇親会開会(18時閉会予定)
- 【会場】** 如水会館 千代田区一ツ橋2-1-1  
☎03-3261-1102
- 【会費】** 一般 8,000円  
学生 無料



**【交通】** ●神保町 下車歩3分(都営三田線・新宿線 営団半蔵門線)  
●竹橋 下車歩4分(営団東西線)

4月から猪熊啓司先生が学校長に着任されました。

**【学校長紹介】**  
上田千曲高校を振り出しに、野沢北、長野高校教諭。松本深志高校教頭として120周年を準備完了させたところで小海高校校長に転出。その後、県教育委員会教学指導課生徒指導幹、兼生徒指導係長を歴任され、この四月一日、本校第25代校長として着任された。

### 新学校長に猪熊啓司先生

## 100周年の春、現役生 国公立合格100を越す!

今年度、現役生の国公立大学合格者が102名とこれまで目標としてきた100名を突破した。数の上ばかりでなく、東大2名、京大3名をはじめ、難関大学の合格数に目を見張るものがあった。

また、現役進学率は平成4年度の46.8%から昨年度の63.3%、本年度66.5%と順調に伸びている。

**東大2名**  
**京大3名**

### 卒業生の進路 (数字は現役と過年度卒の合算です)

国立大学	広島	2	学習院	6	東邦	1	
帯広畜産	2	愛媛	1	北里	7	東洋	17
北海道	2	高知	1	杏林	2	二松学舎	1
岩手	1	熊本	1	慶応義塾	4	日本	14
東北	7	国立合計	135	工学院	11	日本社会事業	1
秋田	2	公立大学		國學院	5	日本女子	2
山形	4	宮城	1	国際基督教	1	文化女子	3
福島	1	山形保険医	2	国土館	7	法政	24
茨城	4	群馬県女子	1	駒沢	1	武蔵	5
筑波	8	東京都立	2	白百合女子	1	武蔵工業	7
宇都宮	2	都立科学技	1	実践女子	1	明治	35
群馬	17	都立保健科	1	芝浦工業	7	明治学院	6
埼玉	7	横浜市立	1	上智	6	明治薬科	1
千葉	4	都留文科	4	杉野女子	1	明星	3
東京	2	長野県看護	1	昭和女子	2	立教	7
東京外語	1	岐阜薬科	1	昭和薬科	2	立正	1
東京学芸	5	愛知県立	1	成蹊	5	早稲田	24
東京工業	1	神戸市外語	1	専修	14	東京工芸	1
東京農工	1	広島県		創価	2	高千穂商科	1
東京医歯	1	保険福祉	1	大東文化	4	女子美術	1
横浜国立	1	北九州	1	大正	2	東京慈恵医	1
新潟	5	公立合計	19	拓殖	4	東京女子医	1
富山	1	関東圏私立		玉川	1	日本獣医畜産	1
富山医歯	1	国際福祉	2	多摩美術	2	武蔵野女子	2
金沢	8	足利工業	1	中央	28	武蔵野美術	5
山梨	2	東京福祉	1	津田塾	2	神奈川工科	2
山梨医科	1	埼玉工業	1	帝京	5	神奈川	14
信州	23	獨協	11	東海	3	関東学院	2
静岡	2	文教	12	東京家政	7	聖マリアンナ医	1
名古屋	1	尚美学園	1	東京家政学院	1	桐蔭横浜	2
名古屋工	1	神田外語	1	東京経済			
三重	2	淑徳	2	東京工科	2	私立合計(全国)	532
京都	3	千葉工業	7	東京女子	4	国公立短大	11
京都教育	1	金沢歯科	1	東京電機	6	私立短大	5
大阪	2	青山学院	17	東京農業	5	専門・各種学校	13
大阪外語	3	大妻女子	2	東京薬科	3	海外	4
神戸	1	桜美林	3	東京理科	24		

# 第39回総会

## ●ご案内●

実行委員は、卒業後30,35,40,45周年という期の方々をお願いしています。今回は53、58、63、64期が担当します。

### 式次第

7月1日(土) 於 如水会館(東京・神田・一ツ橋)

- 第一部 定期総会** 会長挨拶／定例議事／講演 船渡 和男  
(72期 国立スポーツ科学センター研究員)
- 第二部 懇親会** 来賓挨拶／大会実行委員長挨拶



新卒者の紹介も恒例になってきた。

## ●●平成11年度会務報告案●●

- 第38回総会開催 11年7月17日(土)於、如水会館 参加者：295名
- 会報の発行 61号 11年6月5日発行 会員や在校生に8000部発送。  
62号 11年12月15日発行 100周年特集「母校・証言の百年」座談会(1)を組み、12ページで発行。
- 同窓会ホームページを作製 既存の「ゆびとま」ホームページにリンクして、8月末に作製した。
- 名簿整理 パソコンによる名簿管理は順調。しかし、65期以降、転居者が多いが、連絡をしてこないケースが増えている。
- 年会費の納入状況 年会費納入者は659人。前年度より27人増。50期台が311人と最も多く、次いで60期台142人。40期台139人。さらに納入率を高める努力が必要。運営基金納入は31人、32万円。
- OB著作を母校に贈る運動 55期こやまさとし氏詩集「桐の花みつけた」20冊。
- 百周年事業への協力 会報で呼びかけ。記念式典の講師選定では丸山会長を推薦。本部実行委員会への参加など。寄付金募集活動は本部一括で対応。

### 平成11年度 決算報告(案)

単位：円

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差額	科目	予算	決算	差額
前期繰越金	3,402,530	3,402,530	0	大会費	1,500,000	1,496,422	-3,578
大会費収入	1,600,000	2,184,000	584,000	会報費	2,000,000	2,247,337	247,337
会報広告料	400,000	115,000	-285,000	交通費	100,000	79,000	-21,000
年会費収入	2,500,000	2,775,000	275,000	通信費	120,000	134,320	14,320
会議費収入	300,000	321,000	21,000	会議費	600,000	893,389	293,389
雑収入	100,000	164,164	64,164	渉外費	200,000	203,179	3,179
受取利息収入	10,000	1,053	-8,947	印刷費	100,000	48,452	-51,548
(小計)	4,910,000	5,560,217	650,217	事務費	200,000	137,292	-62,708
				雑費	90,000	83,405	-6,595
				(小計)	4,910,000	5,322,801	412,801
合計	8,312,530	8,962,747	650,217	次期繰越金	3,402,530	3,639,946	237,416
				合計	8,312,530	8,962,747	650,217

## ●平成12年度● ●会務計画案●

- 第39回総会開催 7月1日。53,58,63,68期が当番期
- 会報の発行 63号 6月上旬発行(広告担当期62・63期)  
64号 11月下旬発行(広告担当期63・64期)
- 母校100周年記念事業への参加協力、同窓会名簿作成協力
- 関東同窓会独自の100周年事業展開 母校にパソコンを贈る運動など
- ホームページの充実 独自のホームページ開設と関係機関とのリンク
- 年会費納入率の向上 目標1500人/年。若年層への参加呼びかけ
- 母校へのOB著作を送る運動
- 本部・各地同窓会との交流
- 長野県同窓連との交流

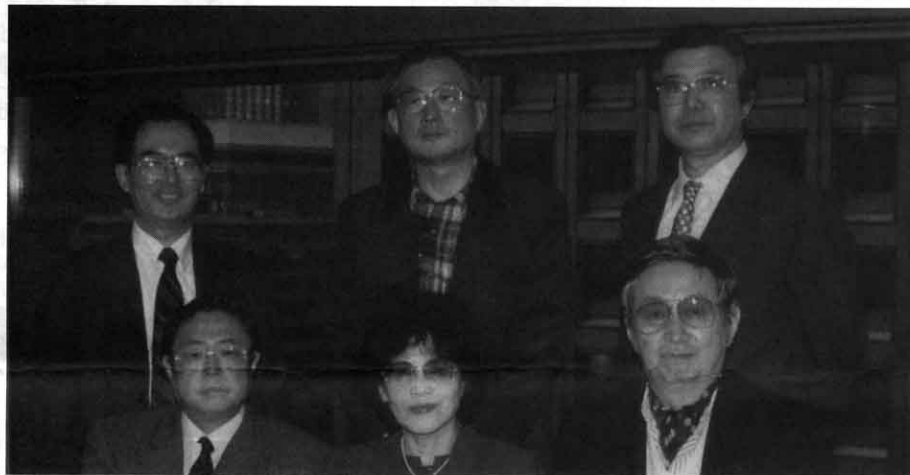
### 平成12年度 予算(案)

基金特別勘定 12.3.31現在

収入の部		支出の部		基金特別勘定			
科目	金額	科目	金額	科目	前期繰越	当期	期末残高
前期繰越金	3,639,946	大会費	1,500,000	運営基金	7,870,000	320,000	8,170,000
大会費収入	1,800,000	会報費	2,300,000	同利息	2,423,375	13,103	2,436,478
会報広告料	300,000	交通費	100,000	合計	10,293,375	333,103	10,626,478
年会費収入	2,700,000	通信費	120,000	一般会計・特別会計総括表 12.3.31現在			
会議費収入	300,000	会議費	600,000	科目	金額	科目	金額
雑収入	100,000	渉外費	200,000	現金	238,996	運営基金	10,626,478
受取利息収入	0	印刷費	100,000	普通預金	3,037,812		
(小計)	5,200,000	事務費	200,000	郵便振替	492,450		
		雑費	800,000	定期預金	10,497,166	次期繰越金	3,639,946
		(小計)	5,200,000	合計	14,266,424	合計	14,266,424
		次期繰越金	3,639,946	普通預金	第一勧銀/神田駅前		
合計	8,839,946	合計	8,839,946	定期預金	安田信託/神田		
				郵便為替	神田淡路町	備品パソコン一式	



# 特別企画 座談会と寄稿による 母校・証言の百年



## 連載第二回 上田松尾高時代

サッカー国体連続出場、バレー全国3位、野球甲子園ベスト8、東大合格者連続県下首位等々、文武両道の数々の栄光に飾られる松尾高校時代を語り合います。座談会に加え、「上田高等学校校史」、「上田高校物語」(郷土出版社)からの引用もまじえて構成しました。(文中敬称略)

### 混乱の時代

八月十五日の「暗い谷間」を日本が抜けた。ダム建設や林道の開削、また市内の工場にと勤労動員されていた生徒達が上田中学に戻ってきた。陸士、海兵、予科練に進んでいた人達も復員してきた。新生日本の新生上田中学は先生方と生徒の诗情豊かな学園として再び陽を浴びて輝くはずであっ

### 出席

- 小林芳彦 (48期) 明治大学商学部卒  
 中島 宏 (51期) 東京外大卒・共同通信OB  
 土屋義子 (52期) 信大卒・教員の後、学習塾  
 馬場雄二 (54期) 東京芸大大学院修了・ヴィジュアルデザイナー・東北芸工大教授・長野冬季オリンピックデザイン検討委員長
- 神津 進 (56期) 東京ガスOB・現在ディーゼーオートサービス  
 成田邦夫 (56期) 東京水産大卒・伊藤忠OB  
 宮島光男 (55期) 東京外大卒・共同通信顧問(関東同窓会幹事長)  
 井上 剛 (61期) 東大卒・学研・本誌編集長



た。しかし……、学園は荒れた。全校生徒を集めて学校批判をしたり、ストームと称して教師たちをやっつけたり、「予科練帰り」が下級生をいじめたり…。

宮島 (55) 「小林さんはこの頃のことをご存じですよ。」

小林 (48) 「はい。終戦の年は虚脱感にうちひしがれてね、私なんかもうよくさぼりましたよ。城の土手に行ってワイワイ騒いだり、千曲川で水浴びをしたり。でも気の合った仲間とエスケープするだけで授業の邪魔はしませんでしたがね。年が明けてから兵学校などに行っていた人達がたくさん帰って来ました。もともと陸士、海兵に行っていた人達は戦時中はあこがれの的でした。彼らが夏休みに帰省した時は真っ白な服に七つボタンが光っていた。腰には短剣を下げて。そして全校生の前で演説をした。そういう人達が戦闘帽に軍服姿のまま或いは飛行服を手直ししたりして登校してきたんです。私たちは雨天体操場に集められ、あの節くれ立った板の上に座らせられた。あっちこちに予科練帰りが立っていた。そして前の方ではアジ演説、説教するわけです。「貴様らたるんぞる」てな具合に。殴られた人もいたんじゃないですか。ピカピカに磨かれた剣道場、あそこにも正座させられたこともあります。予科練帰りの人達を先生方がおさえられない、集団の力で当たれば先生方が下がってしまふ、当時全体の雰囲気としてそういう感じがありましたねえ。」

宮島 「そんな中、二度出火しているんですね。」(昭和21年2月と12月)

小林 「ええ、不審火でした。私は小諸なので火事の恐ろしさは見なかったけど、「お前がうさんくさい」ということで、一週間か10日拘留された友達もいるんです。近所に住んでいて(消火の)手伝いに行っ

ただけなのに。」

成田 (56) 「私の兄がやはり生徒で、火事の夜とんで行ったのを覚えています。」

小林 「教室が焼けてしまったので(2月に10教室、12月に12教室)、校庭下の蚕業試験場を臨時教室に借用して授業を受けました。午前と午後に分けての二部制の授業。午後の部は夜8時ぐらいまでかかったように思います。」

### 新生の息吹

一方、その年、敗戦の虚脱から立ち直ろうと学園にも多くの行事が復活し、企画された。学芸祭、弁論大会、運動会など。

昭和21年11月3日、新憲法発布。その11日後の11月14、15日に第一回学芸祭が実施された。

「あこがれの日はめぐりきて人間の命を歌うなり

文芸の道遠くとも我が学園に銀燭の花と輝く祭りの火いざ進まばや

新生の旗のもと」

昭和17年から27年まで国漢を担当した山極真平先生が作詞した。

「新しき日のめぐり来て科学の光讃うなり」「平和の鐘の高鳴りて学園の樹は芽ぐみたり」と続く歌詞は、この時代の日本人の心を歌ったものでもあった。作曲は音楽の兎束武雄先生。学校の周りに植えてあったアカシアの木の下を行ったり来たりしてふさわしい曲を考えた。

小林 「クラス毎、劇をやったりパザールをやったりしました。その頃からですよ、染谷の生徒が見物に来るようになったのは。女生徒が校門を堂々とくぐったのはあれが初めてではないですか。」

しかし、事件は夜に起こった。祭りの終了後、ファイアーストームの際、誰かが校

門を閉めた。すると誰言うもなく先生達を追い回し、胴上げしたり、なかには殴りつける者も出た。地面をはって逃げる先生。お宅まで追いかけていつて騒ぐ生徒。何人が処分を受けた。背景には軍事教育から一転した教師への不信があったのだろう。「国を守るための戦争だ」と言っていた英語教師の授業を生徒らは「思想転換だ」と追及した。立ち往生した先生はしばらく授業に出て来ないということもあった。これらの事件は、戦後の教師と生徒が新生に向けて一度は通らなければならぬ儀式、けじめであったのかもしれない。教師も生徒も受難の時代であった。

## 上田松尾高校誕生

占領軍の日本教育改革の動きは素早かった。連合国最高司令官は本国に教育使節団の派遣を要請、昭和21年3月5、6日、27名の団員が東京に到着した。一行は実際教育の視察、資料検討を経て、3月31日には具体的方策を立案提出、総司令部は4月7日にはこの報告書を発表している。

これに基づいて、いわゆる6、3、3、4制に移行が決まり、上田中学は昭和23年4月から新制高校としてスタートすることになった。

校名は職員会などで協議し、「上田高等学校」を希望したが、長野軍政部のケリー情報官は「上田には他に学校はないのか」と一喝。それでは「上田第一高等学校」と伺いを立てたら、「第一、第二と順位をつけたら第一の方が優れているような印象を与える、好ましくない」と突き返された。そこで「上田〇〇高校」とすることに、「尼が淵」「新参」「明倫」など浮かんだが適当でなく、「松尾」の名が打ち出され当局の承認を得た。

宮島「真田町に松尾古城というのがあ。上田城は尼が淵城ともいったが、松尾

城というのは松尾古城にちなんでいるのでしようね。」

中島(51)「松尾町というのは?」

宮島「海野町は海野から移住してきた。原町は傍陽の原町から。松尾町も真田から来たのではないですかね。」

松尾高校の発足と共に、23年12月生徒会が発足した。生徒会会則は、関東軍政情報部長ローリン・C・フォックス氏の私案に基づいて各クラス代表が3週間連日討議し、各ホームルームで賛否投票の結果77%の支持によって成立した。

結成の生徒集会で六川常夫(50)が千葉視察報告をしている。六川は千葉(関東地区学生会協議会)に行つて来て、そこで発表された例が米国のハイスクールの自治組織を参考にしたもので、自分たちが討議してきた会則と類似しているから問題ないこと、また議論の的となっていた学校長と生徒との関係について「学校の父兄、県教育委員会即ち県民に対する最高責任は学校長にある。学校長はその職務をそれぞれ分担して委任する。生徒会が取り上げる問題も校長によって定められ、限られるのは当然である。校外の生徒の活動については別問題である」と報告している。六川は後に東大法学部に進み、在学中司法試験に合格、弁護士として官公労働者の労働事件の代理人、砂川事件の弁護士、総評弁護団の結成などに活躍したが、41年松山市沖全日空機事故により遭難死した。

当時生徒会の最大の仕事は班活動を支える校友会費問題であり、全校生徒による班の信任投票が行われた。方法は不信任する二班を連記させ、不信任数の少ないものから15を班として承認し、残りをクラブとするものであった。

宮島「中島さんは、この頃クラブで活動されたんですね。」

中島「そのちよつと後ね。当時は受験勉

強は家でやって普段は勉強しているなんて顔をしない奴が多かった。で、皆、クラブをものすごくやってた。ラジオ班ではラジオオタクがしょっちゅうラジオを組み立てていたし、放送班もその頃出来た。後で信越放送に入った人が作った。僕は化学班やっていてポマードを作ったこともあった。班では教科書に出ている実験を勝手にやるんですが、誰か先輩が甘酒だったか酒を造ったこともあった。」

馬場(54)「発酵の実験と称して」(笑い)宮島「男女共学になる前に『男女共学は是非か』なんて演説会はなかったんですか。」

中島「討論会はしょつちゅうやってたね。『長髪は是非か』なんて。男女共学は覚えていないけどやったんじゃない?」

馬場「男女共学は生徒側からの希望があったんですか?」

中島「あんまり要求した記憶はないなあ(笑い)。生徒会にはいろんな委員があったね、僕は清掃委員だった。要するに学校の中を見て歩くのですよ。それから図書委員も何回もやった。図書購入時に、先生が主体だけど生徒としても意見を言うわけ。毎日図書室に行った。」

宮島「社研もやられたのでは?」

## 懐かしの生徒手帳

宮島「僕は生徒手帳が非常に印象に残っている。僕は書記局をやったのでよく読んだんだけど、あそこに会議のやり方などみな書かれている。動議とはどういうものか、とかね。よくできた民主主義の教科書でした。誰が作ったんだろう。」

この手帳は小山莊司早稲田高校教諭(54)が今も持っている宝物。

中島「社研は呼びかけられて行っただけ。昭和27年、その年は血のメーデー事件もあって、多分に昂揚していた時期だった。信大の人達や東大に行った先輩が夏来て接触していた。そこで誰言うともなしに出たんだね、社会問題を研究しよう。関心を持つている奴が集まったが活動は3年の時だからあまりやらなかった。1、2回か。原爆展はやった。始め校内でやろうとしたが許可が下りないので海野町あたりの公会堂でやった。信大の人達が材料などを持ってきた。我々は受付をやっていたら教頭の清水次郎先生が来られた。逃げる、と地下に逃げた。反抗してやったわけだから停学くらいと思ったが、次郎先生はどちらかというと開放的な方で、立場上ということと若い時は勉強して大学へ行つてからやれというふうで処分はなかった。僕らの一年下の級になると社会科学の先生とエンゲルスの読書会とかやった。僕がなぜ社会問題に興味を持ったかという一年の時河合栄治郎という東大の先生の「社会政策原理」という分厚い本(今見ると難しい本だけど赤線をみな引いてあ



階段下にあった小さな部屋。ホッとすると小天地だった。

る)を読んだ。試験にも出たのではないかな、いろんな社会思想を含めて書いてあり、それにかなり影響されたのではないかと思う。丸山瑛一君(51)ともよく話す。彼は理科系だけど非常におもしろかったと。

**宮島**「土屋さんは中島さんと2年ダブるんですがどうでしたか?」

**土屋**(52)「生徒集会が一番楽しかった。生徒会長の機知、才気溢れる熱弁に酔っているのとパツと飛び込む軽快なヤジ。会場は爆笑に。当時の会長は甕滋前会長、丸山瑛一現会長らでした。」

**中島**「討論はしょっちゅうやっていたね。全校集会でも清水先生がいろんな社会問題に結構触れて訓示をやるんだよね。もちろん校長もやったけど。すると「しもーん」と大きな声を上げてかなり自分の意見を言ったりして自由な雰囲気でしたね、それで怒られるわけでもないし。」

## 男女共学のスタート

**宮島**「26年4月、12人(のちに1人増)の女性が入学した。土屋さんはその一人として第一印象はどんな感じでしたか。」

**土屋**「迎え入れる方はいざ知らず、私たちはすでに中学まで男女共学でした。良い意味でのライバルといえば男子生徒だったのです。私はいったん染谷に願書を提出したのですが、もうそういう男子達と競争できないというのが寂しいことでした。そうしたところが中学校から松尾で募集しているから行ってみたいなかと。だから私はうれしかった。もう締め切り後だったけど願書を変更してもらったのです。」

**小林**「あの頃あなた方には染谷という学校があるのになぜ松尾に?」松尾も落ちたものだなあと、失礼ですがそんな思



勇気ある?12人。服装は自由だった。

いをしました。」

**土屋**「入った時、共学反対という声は、社会の声として何となく聞こえました。私たちが「占拠」した所はたった二カ所。トイレ一カ所と部室を一つ女子の部屋にと。そこだけは男子禁制、のぞきも許されなかった。ここで12名はよく笑い、よく喋りました。思ったことはすぐ口に出せ、相手のいうことも何のわだかまりも無く受け入れられた。最高に気の合う集団でした。」

**馬場**「僕たちは共学3年目ですが、どういう女生徒が入って来たか、鉄の女みたいな人なのか、とても興味をもって入学式を迎えました。俺達のクラスにも来るのかなと。でも僕は女性のいるクラスではなかった。ではどうやって女性のいるクラスの男子を決めたか?『人畜無害の安全な男』をまとめたんですよ。きつと(笑い)。」

**中島**「そういえば、僕の弟も女性のいるクラスだったけど、おとなしい奴だったなあ。」

**馬場**「だから我々がはじき出されたんです。僕は今日、絶対それを言おうと思つて来たんだ(大笑い)。」

**土屋**「安全か、危険かわかりませんが、ロッカーが廊下にあつたので、よく手紙が忍ばせられていました。担任の高柳先生に抗議に行くと、『どれ見せる。フムフムこれがラブレターっちゅうもんか。なかなか面白いもんだな。ハッハッハッハ』で終わりました。」

**井上**(61)「ロッカーの靴のひもにネズミのしっぽをつなげてあつたなんていたずらもあつたそうですね。ではこの辺で馬場さんの青春を。」

**馬場**「僕は松尾高と言われると、ああ俺達の学校だ、野球が強くて文化部が盛んで、進学率が高くて・・と次々といいことばかり思い出します。僕は美術班がおもしろかった。いろんな野郎どもがいて、真道君のように彫刻家になった同級生もいれば、今は医者、コンピュータ会社の社長、バンドを作ってキングからレコードを出したイイ男とか、美大を受けるためだけでなく好きだからという男の集まりで、夏休みにほとんど無銭でスケッチキャンプに行ったりしてね。対染谷の問題で言えば、上野にループル展が来て六時間かけて見に行った。偶然汽車に染谷美術班が乗り合わせたため、誰かが『示し合わせて行った』と告げ口した。

で、先生が『届けて行ったらどうだ』と一言。でもその時届ければだめだと言っただろうけど(笑い)。僕が怪我して入院したとき、小林先生が見舞いに来て最初に言った言葉、『おい馬場君、右手大丈夫か?』つまり続けて絵が描けるかと言うこと。うれしかったね、今でも忘れない。同じ美術の林幸四郎先生は風紀係とかで嫌われ役なんです。授業中にニューパー

ルに映画を観に行っていた。何人かいて、僕は後で東京天文台の所長になった宮本君と一緒にいたら、パパツと暗闇の中で帽子を取られた。つまり帽子には名前が

書かれている。次の日学校へ行ったら呼び出し。暗闇で顔は確認できなくても動かぬ証拠、遠山の金四郎ならぬ林幸四郎の授業以上に見事な裁きでした(笑い)。まあ他にも、僕らのあの頃の通学スタイルも今の学生には信じられないでしょうね。帽子に油を塗ってテカテカにし、つばを短くし、うしろに手ぬぐい下げて高歯を履いてね。で、汽車が上田駅のホームに滑り込むと、誰が一番早く、まだ止まらないうちに飛び降りられるかという競争をずっとやっていました。いつてみれば、ジェームス・ディーンの理由なき反抗と同じです。ある時、沖繩から来た転入生が、あれは誰でもできると思つたんです。でも進行方向に向かって飛び降りなければいけない、それを真横に向かつて跳んだ。それで転がっちゃって、学校から『バカな競争はやめるように』なんて言われた。たしかにリコーでもシャープでもない競争ですよ。ま、こんな日々でしたが、多感な高校時代に非常によい空気を吸わせていただいたと感謝していますね。」

## 甲子園に翻った六文銭

**宮島**「なるほど。ではこの辺で甲子園の思い出にいきましょうか。神津さん達が1年の時が実は最強のチームといわれたんですね。県大会で優勝して、信越大会に臨んだ。だけどその決勝で伊那北に負けてしまった。新潟の白山球場で。僕はその試合応援団をやったんだけど、実力では上と言われながらの負けで悔しかったね。」

**神津**(56)「ええ、その翌年は3年生はマネジャーも含めて3人しかいないんです。数が足りないのですが、夏、秋と悪い成績だった。我々は全員召集を受け、どうし

部活動・  
運動会・学芸祭  
グラフィティ

須田武久(53・新日鐵OB)は、28、29年の学芸祭のプログラムを保管している。当時は劇が多かった。29年は、文芸班「ドモ又の死」1年「地藏教由来」2年「カサノフア物語」定時制文芸班「還魂記」1年「屋上の狂人」英語クラブ「レ・ミゼラブル」文芸班「なまはげ」映画班映画上映「にぎりえ」とにぎやかに並んでいる。

29年陸上班800mリレーの選手。  
やはり秀才校、眼鏡が多い。  
上原 須田 保屋野 富澤 藤本



学芸祭

1954



学校



↑英語クラブの英語劇(30年)「ハムレット」の母親を演じた井上馨(55・東大丸紅)は、声を出したとたん男とわかり、笑いが起こったという。父親の亡霊役は宮島幹事長(55)



↑  
運動会の仮装行列。31年は「10才の日本」。政治家と芸者、アメリカ兵、上野の浮浪児等が登場し、戦後10年の世相をたどる。10才の日本、「精神年令は？」と問い「やと六才」と批判している。

← 運動会の応援団。29年のオール1組



たらよいか、というようなことを書かされました。で、私生活の面でも野球一本に絞れ、ということになり、文通して当時トーンでいた選手も、もらった手紙を焼いてしまった。」

成田「神津投手、自分のことを言っているんですよ。」

神津「いや、僕は奥手の方だから。残念ながら。まあそんなこともあって気をとり直して取り組んだら、春の北信越5県大会で優勝したんです。それが甲子園への伏線でしたね。夏も勝ち進んだけど、決勝戦前、流感にかかってしまった。決勝戦は勝ったけど選手はダウン。旅館で枕を並べて討ち死に状態。だから新潟から帰った時もパレードは中止。「すぐ帰れ」といわれ、家に帰って寝た。甲子園には三々五々行った。だから、甲子園での抽選に主将の私もない、マネージャーもないという中で、2年生の堀内君が引いた。京滋代表平安高校と当たったことを私は東海道の静岡で夕刊を買って知った。だが、ラッキーなことに一回戦は不戦勝、2回戦は開会式から4日目だった。しかも雨で一日順延となった。ついてからも練習は何もできず、先輩の医者に通ったが、試合前にはどうにかキャッチボールが出来るようになった。そんなことだから、こんなこと言うと怒られちゃうけど、当日もあまりやる気なかったんですよ。気合い入らなくて。」

成田「今考えるとそれがよかったんですね。要するに肩に力が入らなくて。神津の球はチョウチョが止まるといわれるくらいの球だけど、要所要所を締めて崩れそうで崩れない、それは見事なものでしたね。コントロールが抜群だった。頭脳派だったですよ。だから打席に入るバッターは「なんだこの野郎」。まさに阪神の星野ですね。いや、星野よりは速かっ



# 昨年優勝の「平安」敗る

## 上田松尾の金星

戸畑とともに准々決勝へ

毎日 8/16

全国高校野球 第四日

【神戸】十七日の第百回全国高校野球選手大会第四日は第三試合で甲子園の優勝候補が依り由緒高く敗れ敗戦した。試合は午前七時三十分から始まり、先発投手は、甲子園の優勝候補である上田松尾高の松尾秀一投手が先発投手として登板した。松尾投手は、第一打席から三振を奪った。二打席は、三振を奪った。三打席は、三振を奪った。四打席は、三振を奪った。五打席は、三振を奪った。六打席は、三振を奪った。七打席は、三振を奪った。八打席は、三振を奪った。九打席は、三振を奪った。十打席は、三振を奪った。十一打席は、三振を奪った。十二打席は、三振を奪った。十三打席は、三振を奪った。十四打席は、三振を奪った。十五打席は、三振を奪った。十六打席は、三振を奪った。十七打席は、三振を奪った。十八打席は、三振を奪った。十九打席は、三振を奪った。二十打席は、三振を奪った。二十一打席は、三振を奪った。二十二打席は、三振を奪った。二十三打席は、三振を奪った。二十四打席は、三振を奪った。二十五打席は、三振を奪った。二十六打席は、三振を奪った。二十七打席は、三振を奪った。二十八打席は、三振を奪った。二十九打席は、三振を奪った。三十打席は、三振を奪った。三十一打席は、三振を奪った。三十二打席は、三振を奪った。三十三打席は、三振を奪った。三十四打席は、三振を奪った。三十五打席は、三振を奪った。三十六打席は、三振を奪った。三十七打席は、三振を奪った。三十八打席は、三振を奪った。三十九打席は、三振を奪った。四十打席は、三振を奪った。四十一打席は、三振を奪った。四十二打席は、三振を奪った。四十三打席は、三振を奪った。四十四打席は、三振を奪った。四十五打席は、三振を奪った。四十六打席は、三振を奪った。四十七打席は、三振を奪った。四十八打席は、三振を奪った。四十九打席は、三振を奪った。五十打席は、三振を奪った。五十一打席は、三振を奪った。五十二打席は、三振を奪った。五十三打席は、三振を奪った。五十四打席は、三振を奪った。五十五打席は、三振を奪った。五十六打席は、三振を奪った。五十七打席は、三振を奪った。五十八打席は、三振を奪った。五十九打席は、三振を奪った。六十打席は、三振を奪った。六十一打席は、三振を奪った。六十二打席は、三振を奪った。六十三打席は、三振を奪った。六十四打席は、三振を奪った。六十五打席は、三振を奪った。六十六打席は、三振を奪った。六十七打席は、三振を奪った。六十八打席は、三振を奪った。六十九打席は、三振を奪った。七十打席は、三振を奪った。七十一打席は、三振を奪った。七十二打席は、三振を奪った。七十三打席は、三振を奪った。七十四打席は、三振を奪った。七十五打席は、三振を奪った。七十六打席は、三振を奪った。七十七打席は、三振を奪った。七十八打席は、三振を奪った。七十九打席は、三振を奪った。八十打席は、三振を奪った。八十一打席は、三振を奪った。八十二打席は、三振を奪った。八十三打席は、三振を奪った。八十四打席は、三振を奪った。八十五打席は、三振を奪った。八十六打席は、三振を奪った。八十七打席は、三振を奪った。八十八打席は、三振を奪った。八十九打席は、三振を奪った。九十打席は、三振を奪った。九十一打席は、三振を奪った。九十二打席は、三振を奪った。九十三打席は、三振を奪った。九十四打席は、三振を奪った。九十五打席は、三振を奪った。九十六打席は、三振を奪った。九十七打席は、三振を奪った。九十八打席は、三振を奪った。九十九打席は、三振を奪った。百打席は、三振を奪った。

第三試合(回戦)  
平安 0000  
上田松尾 0002 10X1 31

たかなあ。

井上「で、3対1で平安高校に勝ってベスト8に進んだが広島商業(その時の優勝校)に0対5で負けたんですね。成田捕手からみて木村監督という方はどういう先生でしたか。」

成田「戦前、中京商業を春夏連覇させた知る人ぞ知る名監督。明治の島岡監督も弟子です。学校では国漢の先生。そう、甲子園は夏だけ、私の思い出は冬なんです。3年生がやめたとき、木村監督



全員下駄履き。14人中11人が眼鏡をかけている秀才校と話題になった。

集まってそこで1時間半ぐらいやってそれから授業に行く。私の家が球場の近くにあったので、汽車通の人をお前の家に下宿せろと神津と堀内が泊まりました。もともと信州というところはハンディがある。年の3分の1は雪と寒さでだめ。お前ら、このハンディをいかに埋めるかが甲子園へ行ける道なんだと言われ、冬でもやりました。6時に行くと言われ、冬も来ているんですよ。雪の積もった日などまさか今日はやらないだろうと思っただけ行ったらいるんですよ。「ゴロはだめだからフライやる」と言われ、東の空が明け始めるので何とか見えるボールを追いました。暁に祈るといふか、栄冠に涙有りというか、その年の夏が甲子園だったのです。」

馬場「創る面白さを楽しんで欲しい。あ、それと忍耐力をつけること。秘訣?、それはタイガースファンになることね」(笑い)。  
宮島「はい、今日はとてもよいお話どうもありがとうございました。」  
松尾の精神風土  
座談会を終えて、宮島が大事に保管している「松籟」から、松尾の精神を作ったといわれる中沢陸次郎校長(昭和24年(32年)の言葉を紹介したい。  
「大志をいだけ。希望をいだけ。現実の暗さは、ややもすれば諸君のうちなる灯をうち消さんとするであろう。こうした現実の暗い力と戦いながら、諸君は、自己の真に理想とするものを、時々刻々に戦いとらねばならぬ。理想は実践を媒介としてかちえられる。」  
「しかし、諸君にとって、実践の最大の課題は、人類愛に生きることであろう。人類愛とは、愛の理想である。それは、まず肉親であれ、友人であれ、身近な一人を真に愛することから、はじめて実践されることであろう。」(3号)  
「最後に、諸君は何といつても指導者たらんとすべき、また指導者たり得る人々である。「流転の世相」とはよく言われるが、諸君はそれに流される人物ではなく、それを裁いて進むべき人物の筈だ。受動的に物事を一喜一憂しては、事は成らない。困難にあつた時、或いは境遇の悪化した時、そういう際にこそ勇氣百倍する闘志と粘着力を持つことが必要である。」(5号)  
松尾の生徒はこういう精神風土のもとで育った。青春のエッセンスが凝縮された10年の記録である。  
(文・井上 剛61・本誌編集長)皆様の思い出等、事務局にお便りください。集まりましたら、特集など企画します。

がお前ら甲子園に行きたいか?と聞いた。行きたいと答えると、行きたいんだっただけ一年間俺について来い。行ける方法が一つある、それは毎日ボールを握ることだ。そういうことで2年生の秋、申告書を書かされました。みんな泣きながら書いたんです、「ついて行きます」と。その時から厳しい練習が始まりました。朝練といって朝6時ぐらいに上田市営球場に

神津「個性的な一つの目標に向かってこだわりをもってやり通すということ。」  
成田「高校3年間は振り返ってみてその後の可能性、将来の夢の出る時期。その時は気付かないとしても毎日を精一杯生きる。」



# ◆年会費 & 運営基金 納入者氏名

◆平成11年10月19日～平成12年5月10日までの納入者。 ◆氏名の後の数字は、複数年の会費を平成何年まで納入されているかを示しています。 ◆お問い合わせは、事務局・幹事長宮島まで (☎・FAX 045-864-1664)

35	洪沢 元則	16	児玉 和己	13	山岸 万亀男	13	倉沢 直哉	24	加賀井 悦郎	15	山崎 武	10	斉藤 亨	13	深町 茂	14	70	丸山 清光	11				
37	根津 勇	11	坂下平四郎	11	清水 茂雄	13	黒川 嘉郎	15	小林 乾泰	15	横山 征三郎	12	沢田 紀男	10	宮坂 信章	14	71	高木 繁	13				
38	小林 直樹	13	47	宮原 信治	11	風間 充	12	小島 和人	12	54	齊藤 智巳	13	56	岩下 宏	18	城下 尚	13	久保 治良	12	72	勝山 節子	10	
39	横関 嘉伸	16	田沢 徹	11	飯島 弘行	13	小林 保雄	18	坂口 守	13	上原 清治	14	杉浦 皓充	12	63	成沢 三雄	9	気田 夏子	14				
40	吉田 光輝	11	小山 邦朋	11	小沢 泰衛	14	小林 祐二	15	滋野 三樹	17	内海 章緒	18	滝沢 一彦	10	山本 寿美子	12		西田 光男	14				
	柳沢 喜三郎	11	丸山 栄一	13	佐藤 芳徳	16	保坂 利勝	13	篠原 元司	13	岡田 健治	10	山村 邦夫	14	64	奥村 恭子	13	船波 和男	18				
	渡辺 久雄	11	小山 和弥	16	滝沢 茂太	12	丸山 瑛一	21	竹重 節雄	15	神津 進	17	中島 秀忠	14		小松 正佳	11	73	青木 利之	11			
41	金沢 光男	21	山崎 繁広	13	50	久保 長行	12	丸山 弘	12	千村 一平	15	甲田 安彦	10	59	石塚 洋一	15		清水 安雄	10		須貝 博	12	
42	栗田 裕夫	15	水野 純	17	金井 忠雄	18	母袋 博一	12	土屋 晃一	12	白井 利彦	17	稲葉 茂	12		春原 和民	13		橋爪 宏達	10			
	高橋 祇市	16	48	臼田 誠人	13	大塚 文芳	11	山辺 俊一	10	パワーズ	11	竹内 仁	13	指宿 淑子	13	関川 哲	11		藤本 和彦	17			
	六川 英夫	15	高柳 英治	12	児玉 忠雄	15	山本 晏久	13	喜美子		永井 佳雄	13	小林 義典	17		村居 次雄	16	75	宮島 省吾	13			
	折田 義雄	11	大平 暁	12	小林 幸夫	12	52	青木 功	23	星野 賀永	12	西島 幹夫	11	荒井 長利	14	65	田口 令子	14	76	堀籠 秀直	12		
	宮本 武	11	竹内 啓三	11	竹内 啓爾	27	赤池 孝之	20	松井 平三	23	56	平尾 充雄	16	60	沓掛 行徳	12		中沢 等	11		清水 順三	18	
	田村 滋雅	13	田中 重徳	11	沼田 淳	16	掛川 十次郎	17	山俊 俊二	25	翠川 和彦	12	橋本 隆弘	9	66	今井 郷子	14	77	沓掛 由美子	11			
43	梅田 実	11	宮沢 英人	13	花岡 忠男	12	片山 浩之	18	宮入 裕夫	10	若林 和寿	22	山本 哲之	12		清水 理	12	78	渡辺 博	15			
44-4	荻原 隆	12	今井 正明	11	水野 哲雄	17	52	甲田 広行	19	柳沢 明	12	57	皆瀬 淳	13	61	阿部 治	14		清水 通男	18	82	田中 万盛	11
	山本 太一	11	高柳 直樹	11	柳沢 洋一	12	小林 孝典	19	山崎 茂幸	16	黒沢 武	13	市川 武伸	17		中沢 昇	10	84	城下 理恵	11			
	金子 健	11	三浦 幸雄	13	渡辺 一雄	12	佐々木 淳二	28	55	荻原 光夫	14	小島 士郎	10	井出 孝光	13	67	内山 隆	11		吉池 仁	10		
	竹内 秀彦	25	49	柳沢 敏郎	17	渡辺 洋一	23	関 正利	14	倉見 英一	12	竹内 昭	17	加賀美 徳行	12		堤 隆	11	87	足立 和香子	10		
	山極 栄司	13	藤原 実	9	秋山 忠利	12	高松 健治	14	滝沢 哲三	12	野田 晃弘	12	沓掛 忠	9		長井 久二	10		山口 稔	10			
	市川 渡	25	芦田 純	13	宮原 省三	27	滝沢 泰造	12	田玉 尚武	9	畑 勲	14	羽毛田 仗一	13		村越 進	11						
	児玉 志郎	11	銭沢 末治	13	輿水 朝治	12	竹鼻 幸男	12	塚田 忠夫	10	中村 厚生	12	宮島 英紀	24	68	村田 長年	16						
44-5	入山 和太次	11	竹重 信幸	12	51	内久根 孝一	13	松崎 義一	13	臣川 晃夫	17	58	伊東 啓治	15		麦島 和子	17	69	三井 健二	10			
45	山辺 力	13	堀内 吉人	13	金井 高男	12	53	大塚 教夫	13	毛利 義範	13	小山 泰	13	62	岩井 重一								

◆運営基金拠出者◆ 44-4市川 渡(2口) 47牧内 操 水野 純 坂下平四郎 51小林保雄 52片山浩之 55横山征三郎 56甲田安彦 57小島士郎 58小山 泰 59指宿淑子 67内山 隆 12宮島省吾 (拠出額は一口1万円。合計140,000円。基金累計は8,200,000円)

## 訃報

ご冥福を  
お祈り  
致します

島田 次郎氏(21) 平成12年1月6日  
 増田 三郎氏(27) 平成7年死去  
 松野 輝彦氏(28) 平成8年6月15日  
 斎藤 清氏(30) 平成11年2月21日  
 小出 正夫氏(31) 平成8年12月29日  
 宮原 長知氏(34) 平成11年7月9日  
 掛川 長平氏(35) 平成11年12月14日  
 武井 和夫氏(37) 平成11年10月17日  
 若林 時治氏(43) 平成9年1月15日  
 岡野森太郎氏(45) 平成11年1月14日  
 清水 豊氏(47) 平成10年12月18日  
 関 利久氏(47) 平成11年11月17日  
 和田 道爾氏(47) 平成11年8月3日

61年6月、軽井沢の我が家で「緑蔭相談役会」と称して、吉井道教20期、島田次郎21期、大森頼雄23期、坂井実雄28期、矢島五郎31期(さびしくも皆さん故人に)の相談役および小林郷司先輩と私が参加しての会合は実に楽しいものになりました。飲みみかつ酔うほどに大いに語り、歌い踊りと高原の初夏の夜は弾みました。翌日の観光の途中、上中から東大までの後輩浅井(土屋)敦氏(32期、故人)を追分のお宅に訪ねられ、久闊を叙しての満足も加わり、あの日の島田先輩の楽しげなお姿は今でも私のまぶたから消えません。ここに思い出の一端をつづり、追悼の言葉といたします。



## 追悼・島田次郎先輩

44-5期 柳澤 廣

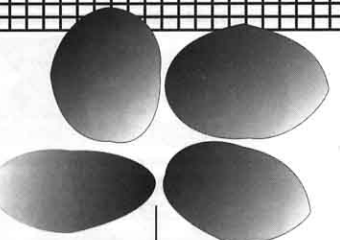
今年もまた、変わらぬ筆跡の年賀状をいただき、「大先輩もつつがなく何よりです」と遙かな日の温顔に思いをさせていたのも束の間。やんぬるかな、ご家族から島田先輩の訃報を知らされたのは一月六日のことでした。万感胸に迫り、言葉ありませんでした。

思い起こすと昭和33年(1958)に同窓会関東支部(現関東同窓会)が発足し、その草創期から会場係として下働きをしていた私に「会費は足りているのか」と優しい心配りの声をかけてくださった先輩でした。以来、会を重ねる毎に多大の薫陶を受けてきました。

「生涯支部長」を避けて一期3年の任期制を提案、実践されて、昭和46年から49年まで第四代支部長として基盤もようやく固まりつつあった支部を運営され、発展、向上に尽くされました。そうそうたる役員、わけでも幹事長に矢島五郎氏(31期、第七代支部長)、会計監事に小林郷司氏(40期、第九代会長)らが甲斐甲斐しく働かれました。これも島田先輩のご人徳と敬服しています。その後の相談役会では毎回、私は先輩の温容に接することが嬉しく、学識豊かなお話を心の糧として拝聴させていただいたものです。

59年4月、東京での仕事をやめて軽井沢に帰る私のために、同窓会に寄与したとして相談役の皆さんに呼びかけ送別会を開いていただき、身に余る光栄でした。その時の色紙に「永久にわれ君を忘れず 昭和五十九年四月十九日 島田次郎」とあり、いまも私の宝です。

# 会員 短信



で健康に過ごしており、古文書などを読んだり手のコレクションなど趣味に明け暮れていました。5日前に死去いたしました。これまでのご厚情に感謝します。

▼**清水 幾男(38)** 会報、ありがとうございまして。早速、上田の同級生に送りました。

▼**栗田 裕夫(42)** セブンの社長を約6年、その後取締役相替役を1年やり平成10年5月退職。引き続き千代田区に栗田経営顧問事務所を開設、特に小企業の方々の支援を進めています。73歳になり、第5の人生を楽しみ、東京坂城会会長もして地域の振興を考えています。

▼**金子(旧姓宮沢)健(44)** 1999年は小生にとって、

元気で古希を迎えられたことと、皆さんのお陰で叙勲(4瑞)の榮に浴したことがあり思い出の年となりました。

▼**上野平八郎(47)** 上田時代には夢想もしなかった古希目前です。元氣な男の内孫に振り回されながら、ゴルフに囲碁、水墨画を楽しんでいます。

▼**清水 豊(47)** 家族より一昨年1月、胃がんで発病。末期のため氣力のみで、告知も受け、その後8ヶ月間、自分自身で行きたいところ、以前に行つた山やハワイにも行きサンセットを見てきました。12年の正月を伊豆で迎えたいと点滴や抗がん剤で治療を続け、最後まで歩いてりハビリに努めました。70歳の正月を目前に亡くなりました。皆さまのご健康を

お祈りします。

▼**田原 敬(48)** 歴史に興味を持ったのは、会社を退職後、6年前に偶然東大名譽教授の江上波夫先生と30人ほどでモンゴル旅行をしてから。考古学と世界の歴史について現地で勉強会もあり、奥の深いことと先生の人の素晴らしさに惹かれ「東アジアの古代文化を考える会」に入会。中国へ4回、今年(平成11年)はエジプト、イスラエルへ行き、ローマ帝国時代、オスマン・トルコ時代のことやユダヤ、キリスト、イスラムに関することなどを学びました。12年には、イスラム教が西洋とどう関わり合つたかをテーマを分担して10ヵ月ほど勉強し、発表会などをします。

▼**和田 裕(48)** 同窓会がますます充実し、会員の憩いの場になってきていると思えます。ある年齢を超えると人と縁ほど大切なものはないことが実感されます。特に戦中から青春時代を経験した世代にとって、疾風のように走り抜けた半世紀余を語り合う友達の有り難味がひとしおです。小生、なお70歳までは現役で現在の仕事を立て直すつもりです。人生最後の公の奉公と思つていきます。

▼**清水 章男(50)** この2年間、松本で仕事をしてきました。上田、松本とは変わったも、長野の自然の素

晴らしさを改めて感じました。松本市内から見る冬の白い常念岳は、神秘的ですらありました。

▼**掛川十次郎(52)** 「うえだ」62号、興味深く読ませていただきました。「凱歌」の誕生の様子などは、全く知らないことでした。懐古園で肩を組んで歌つた「凱歌」は忘れられません。健康に注意して、遊びに力を入れたらと思っています。

▼**塚田 靖(53)** 長いこと勤務していた東京学芸大学を11年度で退官し、新しくできた「尚美学園大学」に務めることになりました。この大学は「音楽が好きで、コンピュータも好き」という学生にはとても向いています。おかげさまで私も今、コンピュータの特訓中です。六十代半ばになってからの勉強で大変ですが、学生に馬鹿にされないよう頑張っています。ユニークな面のある大学なので、お問い合わせください。現在は音楽の教官と、体育「スキー実技」の非常勤講師をしています(変な取り合わせですね)。

▼**増田 陽雄(53)** 62号の特刊企画「母校・証言の百年」に興味深く拝読、感激しました。母校の歴史がこんな努力の上に築かれたことを再認識しました。ここに名前が出られた方々以外にもいろいろの職域、社会で活躍された方々ばかりと思えます。しかし、現役を離れた方々は、多くは名刺も持たれず、その人となりに接するのは至難です。こうした参加者全員の職歴や専門分野、趣味、生き方などを知ることができると、窓会名簿」ができたなら、どんなに楽しく励まされ、総会・懇親会の場も一層世代を超えた交流の場になるかと思うのですが。

▼**黒岩了(55)** 同窓会の便りは実に素晴らしい(会費も払わずに苦しいが、返事も出さないのはお心苦しい)。未熟者が人生の荒波に耐えてこられたのも、松尾時代の高い精神が源であると確信しています。諸先輩と同窓生の息吹が、大きな激励になっています。

▼**遠山 武彦(55)** 38年間のトヨタ生活を無事卒業。母校百周年は、55期生には入学45周年。同期の秋山君が専務をしている東京ドームのホテルが夏に開業するので、9月中旬をめぐり同期会を開きたいと呼びかけ中です。上田からも大挙してきてもらいたいと声をかけますので、前回は上回る盛況にしましょう。ぜひご参加を。

▼**金子 親領(58)** 1月22日の58期懇親会及びクラス別2次会を契機に、改めてクラス会開催の気運が盛り上がりつつある模様。夏の関東同窓会に向けて58期生の結

集を期待しています。(58期は夏の総会7月1日開催の当番期ですので、よろしく願います)

▼**原 裕(58)** 一年の半分はスペインで昼寝暮らしです。6年前に出版を始め、筆者「中丸明(ナカマルアキラ)」でやっています。かなり売れてると思います。大きな書店で検索してみてください。2009年は4月5日、NHKの青山教室と横浜ランドマークで講座を持った後、スペインに帰ります。

▼**寺島千恵子(58)** 同期会が1月22日、上田で開かれました。恩師の叙勲祝いも兼ねて、楽しいときを過ごしました。百周年記念事業の文化行事担当者(龍野彰宏氏)周辺から進捗状況を聞きました。

▼**桜井 資悦(59)** 連結決算中心の時代を迎え、海外往査が急増しました。

▼**三井 文人(61)** 昨年12月、初めて同期会をしました。12人参加しました。徐々に参加者を増やすようにしていきたいと思つています。

▼**田井 美(61)** 53歳から単身赴任で松本で勤務しています。美ヶ原の反対側は初めての経験で、いつもあの向こうが上田だなあと思っています。幸い、上田高校の出身ということで仕事もスムーズに行きます。県人意識が強い証拠かもしれません。会報を見る

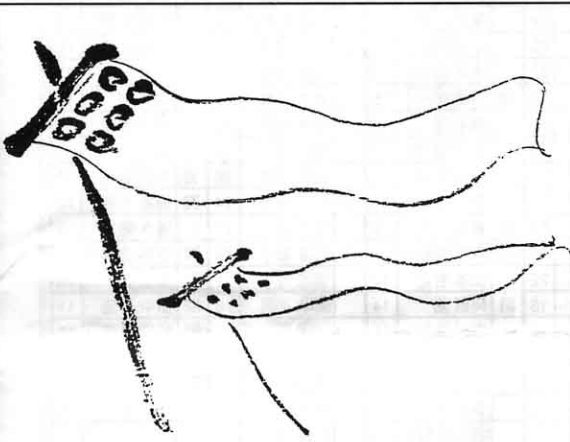
▼**上田 政男(26)** 百年祭に貧者の一灯として3千円拠出しました。若いつもりでいきましたがいつのまにか90の坂を越えました。26期は全面的に若い方々の方向に同調します。

▼**保屋野正清(26)** 昭和35年卒。年が明け90歳。生存者も数えるほどで、会に出席できる者も少なくなりまして、私は元気で仕事をしています。次回の総会でお目にかかれれば幸いです。

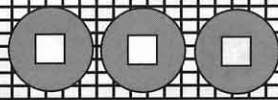
▼**山本 五助(36)** 満80歳を超えたら急に老い込んだよな気がします。起床時に両足の疲れがひどく、ときに激痛に見舞われることがあります。(お元気で回復に努めてください)

▼**新井 邦夫(37)** 念願の社会福祉法人足立邦学会特別擁護老人ホーム「さくら」が4月に開設します。敷地100坪、地下1階、地上3階で、入所50人、ショートステイ20人収容です。介護保険により入所しますが、その運営が大変です。

▼**武井 和夫(37)** 妻照子様から「夫は99年10月17日に亡くなりました。それま



清水憲一郎 (32) 画  
同期生会誌「生きる」(平成4年刊)より



度に先輩連の元気に勇気づけられます。パソコンも始めたので、ぜひメールをください。戸倉町出身 (v.t.19@ic.snet.ne.jp)

▼滝沢 雅男(61) サッカー部の思い出を百周年記念号(本部発行)に投稿し、完成を心待ちにしています。現在は会社をリタイアし、油絵を描いたり、翻訳したり、釣りをしたりの暇な生活。会社を辞めて初めて日本の実状を把握しつつあるところで、最近の世相、特に教育界の乱れに驚いています。昔の上田の先生は大変厳格で怖い存在でもあり、一時登校拒否した経験もあったことを思い、隔世の感です。

▼岩井 重一(62) 司法界では現在内閣に設置された「司法制度改革審議会」において「21世紀のあるべき司法」を巡って急ピッチで審議を進めています。日本弁護士連合会は「市民にとって親しまれる司法」「市民の司法」の実現のためにさまざまな提言をしています。小生も会員の一人として微力ですが活動しております。上田高校も創立100周年を迎えましたが、後輩の方々がたくさん司法界に入られることを期待しています。

▼荻野 宏(63) 若いころは「会員短信」を頂いても何も感じなかったのですが、年を経るにつれて嬉しくな

ってきます。卒業してもう35年も経つわけです。同窓の方々の吉報や訃報を知るの唯一会員短信になりました。現在は弟とともに貿易会社を運営し、米国や欧州に出張に追われる毎日ですが、上田の山の美しさ、応援団で太鼓を叩いていた青春が一番美しかったと感じます。

▼山村由紀子(69) 3月17日に引越し住所が変わります。片づけているうちに葉書を出します。仕事をし、子育てをしているうちに良い年齢になってしまいました。少しづつ時間をかき集め、10年計画で勉強を始めました。忙しくも楽しい日々です。もう少し同窓会に関われるといいのですが。

▼高木 繁(71) 近ごろは「Eメールのおかげでいろいろな方と情報交換ができ、便利になりました。高校卒業の27年前には全く予想もできなかったことです。当時は「以心伝心」はありましたが、相当気心の知れた者同士しか通じませんでした。

▼春原 一(75) 上田高校で学んだ日々は、人生に大きな意味を持っています。ウエストン將軍の有名な言葉「ワートロンの勝利は、イートンの

庭で学んだ」まさにそのとおりと思います。

▼渡辺 聡明(75) 12年12月に東大医学部付属病院外科助教授になりました。今後ともよろしくお願ひします。

▼水藤 寛(78) 会報などをずっと両親のところへ送って頂いていました。現住所をお知らせしようと思っ

ています。私は平成3年に国立音大を卒業し、今は3人の子の育児に追われていますが、夢があります。ようやく注目され始めた「音楽療法士」の資格を取り、ダウンの子、痴呆の老人、心身症の人などに音楽を使って心を開く手段にしたいと思っています。人生はまだまだ勉強ですね。音楽療法に関する情報がありましたら、ぜひお知らせください。

▼山口(旧姓塩沢)稔(87) 99年11月に結婚しました。人生で最大の節目です。姓が変更になっています。

▼足立和香子(87) 栃木県足利市の本源寺に嫁いでからは4年目、2児の母になりました。今年(平成11年)は当寺に鐘樓門が再建され、にぎやかな大晦日になりそうです。お近くの方は除夜の鐘を聞きにいらしてくださいね。

▼中村 幸子(85) いつも会報ありがとうございます。楽しみに読ませていただいています。私は平成3年に



- 住所表示変更も含まます
- 中沢清男(48) 川崎市麻生区上麻生5-17-2
  - 宮入寿治(48) 静岡県小笠郡菊川町柳1-12-1 0537-36-6857
  - 佐藤憲三(48) 岐阜県安八郡神戸町神戸1370-10 0584-27-9131
  - 清水章男(50) 市川市大洲3-12-9-505 047-378-3768
  - 清水正晴(50) 中央区八丁堀4-12-4 03-3522-3028
  - 高木快雄(53) 杉並区和泉4-46-5 03-5378-4233
  - 山岸善雄(53) 大阪市中央区島之内2-8-21 06-6212-2081
  - 山寺正信(旧姓山宮、53) 栃木県小山市東城南1-1-3 シャトレ海老沼403 0285-23-3400
  - 朝倉慶昭(53) 府中市北山町3-23-15
  - 寺田明彦(53) 松戸市稔台21-16 047-364-7438
  - 堀内貞夫(53) 横浜市金沢区並木2-6-6-2-108
  - 山田武彦(53) 藤沢市藤が丘2-23-16
  - 小宮山英視(54) 鴨川市川代字清水尻1314 0470-93-6407
  - 小市則夫(54) 文京区大塚3-35-14-303 03-3944-1240
  - 丸山俊二(54) 武蔵野市吉祥寺東町4-6-18 0422-23-5003
  - 後藤人三(54) 港区三田2-3-34-1106 03-5445-7187
  - 白木照子(54) 横浜市旭区若葉台1-9-702 045-922-5201
  - 古谷隆男(54) 愛知県豊明市新栄町5-1-3-506 0562-98-1018
  - 品川勇一(58) 大田区池上6-4-18-504

- 市川昌嗣(58) 船橋市前原東4-1-3-210
- 星野和俊(58) 横浜市港南区野庭町171-1 045-843-0198
- 勤務先 大昌電気工業(株) 045-822-1381
- 指宿淑子(59) 横須賀市ハイランド1-24-4 0468-49-6860
- 中村久美子(61) 松本市丸の内9-29 0263-35-8067
- 勝野道弘(63) 多摩市関戸4-72-1803 042-371-0310
- 成沢三雄(63) 横浜市港南区日限山3-15-23 045-846-0092
- 土屋行夫(64) 埼玉県与野市本町西3-12-1-604
- 林 恒美(64) 埼玉県川口市市川口4-9-27-805
- 田村一平(65) 江戸川区松島4-38-19-202 03-3674-3253
- 清水 理(66) 千葉市中央区矢作328-1 043-222-0880
- 石田雅夫(67) 松戸市常盤平7-20-3-509 047-386-3576
- 土屋忠巳(70) 練馬区谷原5-28-3 03-5947-3588
- 春原一道(75) 袖ヶ浦市野里1302-3 0438-75-7896
- 出浦史朗(72) 浦和市大東1-10-7 048-883-8182
- 船渡和男(72) 世田谷区桜上水4-1-11-405 03-3430-8103
- 橋爪宏達(73) 杉並区本天沼3-13-10 03-5311-5045
- 須藤喜子(75) 佐倉市大崎台4-15-7 043-486-8945
- 塚田勝彦(75) 坂城町大字坂城9311 0268-82-2690
- 堀籠秀直(76) 蓮田市椿山4-9-12 048-769-6219
- 飯高邦夫(79) 横浜市都築区荏田東2-22-21 045-941-1683
- 北川雅永(80) 東村山市栄町3-7-1
- ヒルズ武蔵野久米川302 042-397-2016

元氣印 Report

第4回女子同窓会

「人は誰でも人に手を借りずに死ぬことは出来ません」「介護するということは、人生の終焉を迎えようとしている人と共に生き、生活するということです」・・・3年ぶりに開かれた女子同窓会で講師役を買って出た久昌貴代江(54期)さんの基調スピーチにメモをとる会員が多かった。

今回で4回目となる女子同窓会は2月19日、東京・日比谷の日本記者クラブで開かれた。関東同窓会会長を主賓を迎えるこれまでのフォーマルな会合から趣を変え、「する介護、される介護」という身近なテーマを掲げたこの集まりでは、久昌さんの話の後、勤務と在宅介護を両立させる知恵や悩みなど会員から次々と発言が続いた。

末期ガンの若い母親の在宅看護を支援したある会員は「いくら勧めてもベッドを使



わない彼女には思いもよらない理由があったのです。あとわずかの命なので自分の子供たちと一緒に寝たいと言われた時には、自分の思い上がりを恥じました」と介護側の難しさを話した。

なかには「昨夜、老後の過ごし方について初めて夫と話し合うことができてうれしかった」と語る人もいた。

懐石料理をいただきながら12時から4時まで終始和やかな会となった。今回、52期から66期の153名の会員への呼びかけに、25名の諸姉が出席して下さいました。

黒岩千鶴子(54期)・記

中山典之棋士(49期)出版記念会開かれる

日本棋院六段棋士・中山典之氏が、「圍爐端歌百吟」という本を出版、その記念会が一月に開かれ、各界関係者や同窓の友人等で賑わった。囲碁にちなんだ「いろは歌」を集めたもので、囲碁の神髄や苦楽が歌われている。歌毎に中山流の軽妙洒脱な随想が添えられた興趣の本。中山氏は、衛星放送で「実践囲碁解説」も放映中。一級～二段ぐらいの中級クラス向けの楽しい解説もしている。



リレー随想



中村礼三氏(51期)より  
田原 敬氏(48期)へリレー

東急の五島昇さんが亡くなられた年、東京の板橋区産業連合会館で新年会があった。当時日商副会頭の本田宗一郎さんの講演後、別室に移り懇親会となった。

わが社と本田技研とは土地を貸し、倉庫を借りている関係があり、この件を伝えると本田さんは「あなたの会社には大変お世話になった」と頭を低く下げてご丁寧にあいさつされた。恐縮のあまり身のやり場に困った。人としての優しさと率直な態度に改めて感動を覚えたが、気がつくとも幾重にも人々に囲まれていた。朝霞市にある本田技研の研究所に行くと、本田さんの話を聞かされ、自分たちの経営者を心底から尊敬していて、心温まる思いをしたものだ。

同期の48期で東京工業大学名誉教授、宮坂啓象君(現新潟県新発田市収入役)が

「知性の時代」を出版(新潟日報社)され、この一月に恵与された。文中に、以下のことが書かれている。

——本田技研創立者の本田宗一郎氏と藤沢武夫氏が私財を投じ、若い日本の研究者の生活を支援するための「作行会」という組織の創立に際して出された条件である。会の運営について「二人の名前は絶対に出さない」「二人は会の運営に口を出さない」「二人の係累のものを会運営に関与させない」の三つである。私も大学の助手時代にもらえたが、月給に匹敵するほどの額で、アルバイトをしなくても済み、今もって深く感謝している。

あの当時、作行会に支援された若い研究者がその後挙げた業績をすべてまとめると、質量ともに膨大なものになる。さらに

二人は、基金を使い切るように指示された。基金は運用利子などを原資として使うのが普通だが、会の存続よりも基金を有効に使うことを優先すべきだという考えである。なお、二人が誰もが信じられないほど潔く、自分たちがつくりあげた本田技研から引退されたことはよく知られた事実である。(以上100-101ページ)——

あの日、本田さんは、東京への進出地が板橋であったために殊のほか愛着があるのです、と笑みを絶やさず満場の人を楽しくさせた。いただいた年賀状は十二支に決まっているが力強い表現で、版木に彫るにも精魂を込めたものであった。

祝!

会報 63号

61期

61期は昨年12月4日、卒業後36年目にして初めて、関東在住者による同期会を開いた。場所は渋谷の土佐料理屋。以下の面々が集まり、終了後も喫茶店に席を移すほど楽しい一時だった。なお、出席できなかったが、堀内寿美、佐藤守正、池内信生各氏からもカンパやメッセージが寄せられた。なお、61期の連絡は、三井文人幹事へお願いします。1組吉澤善男(川崎市

高津区二子3-28-21 高津宿舎103) 2組沓掛忠(相模原市千代田6-6-1) 清水正睦(入間市新光306-92) 5組荻原聖巳(浦和市太田窪5-5-5) 羽毛田仗一(横浜市緑区白山4-56-7) 好沢恒夫(立川市柏町4-65-30) 6組三井文人(小金井市貫井北町3-25-14) 山浦直次郎(杉並区浜田山3-16-16) 7組笠井徳爾(江戸川区大杉3-24-15) 倉島建美(川崎市宮前区鷺沼1-6-6) シャトー植村302) 滝沢進(世田谷区東玉川1-22-23) 井上剛(鎌倉市今泉台7-24-5)